



買ってきた品物と、理由を発表する参加者  
左ら＝草津市新浜町のイオンモール草津で

## 買い物通じて 防災を考える

草津で催し

地震などの災害に備えるため、どんな物が必要かを考えながら買い物するイベント「お買い物ものde(で)ぼうさい」が十一日、草津市新浜町のイオンモール草津であった。

三十分間で千円以上二千円未満の品物を買いたい求めるルール。災害発生後、三日間の過ごし方が重要とされ、その状況を想像しながら十代から六十代までの十人が品定めした。

立命館大三年の内川紗織さん(三二)＝草津市＝は、二リットルの水二つ、おにぎり三個、ドーナツ、チョコ、缶詰、ゼリー飲料、ガムを計千二百四十七円で購入。「水はトイレにも使えるし、ドーナツは腹持ちが良い。ガムも口が

寂しい時にかめば紛れる」と理由を話した。マスクやクツション、懐中電灯など、避難所や車中泊を想定した人や、無料の段ボールを持ち帰る人もいた。トランプなどの娯楽用品もあった。

毎月十七日を、おにぎりを食べて防災意識を高める「防災おにぎりデー」とする取り組みを進める草津市民らのグループ「防災おにぎり委員会」が企画。アーバンデザインセンターびわこ・くさつや立命館大が協力した。

立命館大共通教育推進機構の山口洋典准教授は「それぞれが三日間を考えながら購入しているようだった。実際に使ってみて、自分の生活になじんでいるか試してほしい」と講評した。

(鈴木啓紀)